



“地域のことは地域で考えよう”

2018年7月27日

おきぎん県内景況・速報 2018年6月 —県内景況は、拡大している—

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースとも前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数も下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年6月分)

◎2018年6月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

6月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回りました。百貨店売上高は衣料、雑貨などが伸び、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は、普通乗用車が伸びず、前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国やその他の公共的団体発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

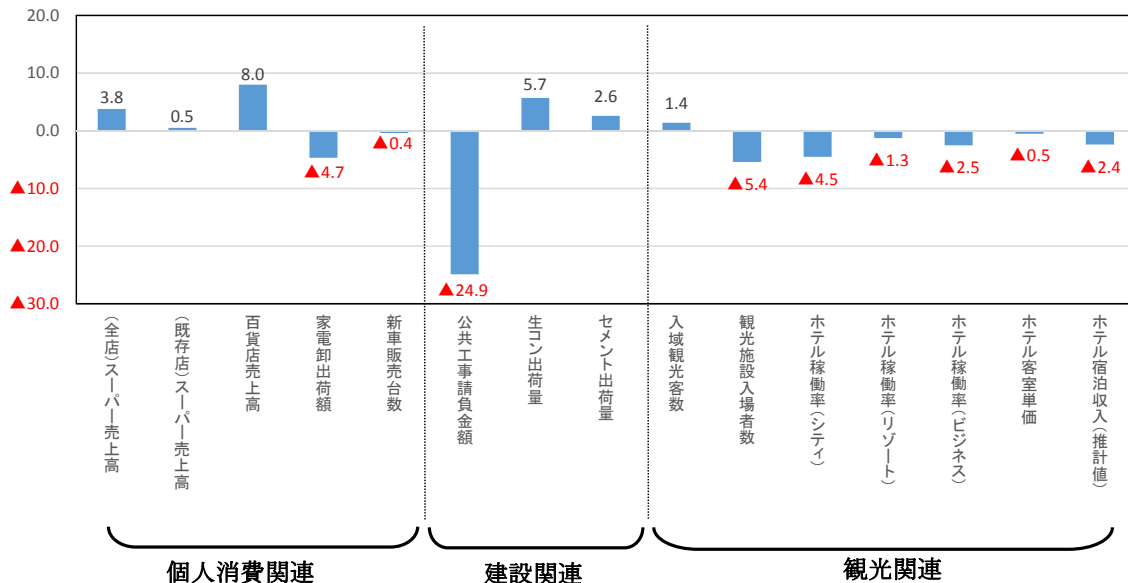
観光関連では、入域観光客数は69ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から53ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位：%、ポイント)



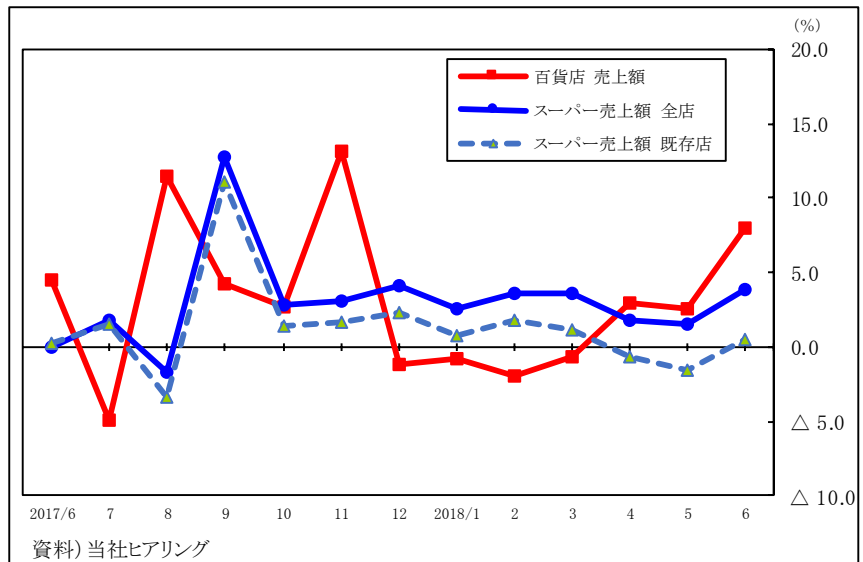


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高も前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2017/6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0



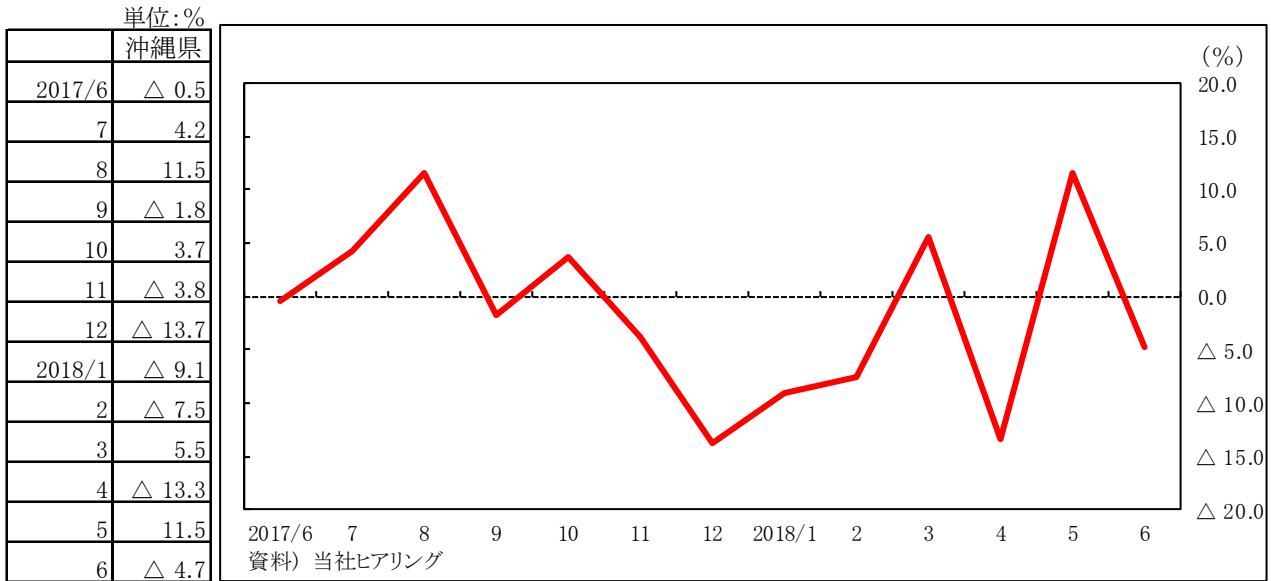
注) 前年同月比

6月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 3.8%増)」は、新規出店効果などにより「食料品(同 3.6%増)」、「家庭用品(同 5.3%増)」、「衣料品(同 1.0%増)」が伸び、10ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 0.5%増)」は、前年に比べ気温が高く推移したことや、土曜日が1日多かったことなどから、夏物商材を中心に売上が伸び、3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 0.1%増)」は、前年に比べ気温が高く推移したことから、飲料品や氷、アイスクリームなどが伸び、前年同月を上回りました。「衣料品(同 0.8%増)」は、Tシャツや女性用かりゆしウェア、子供用水着などの夏物商材の需要が増加し、前年同月を上回りました。家電や雑貨など「家庭用品(同 2.0%増)」は、エアコンの売れ行きが伸び、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、衣料品、雑貨の売上が伸び、3ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 8.0%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 6.9%増)」は、「紳士服(同 2.0%減)」が前年を下回ったものの、「婦人服(同 8.1%増)」はイベント企画や、クリアランスセール開催を前倒したことなどにより、売上が増加し、前年同月を上回りました。「食料品(同 4.2%増)」は、催事企画による売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 16.0%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。

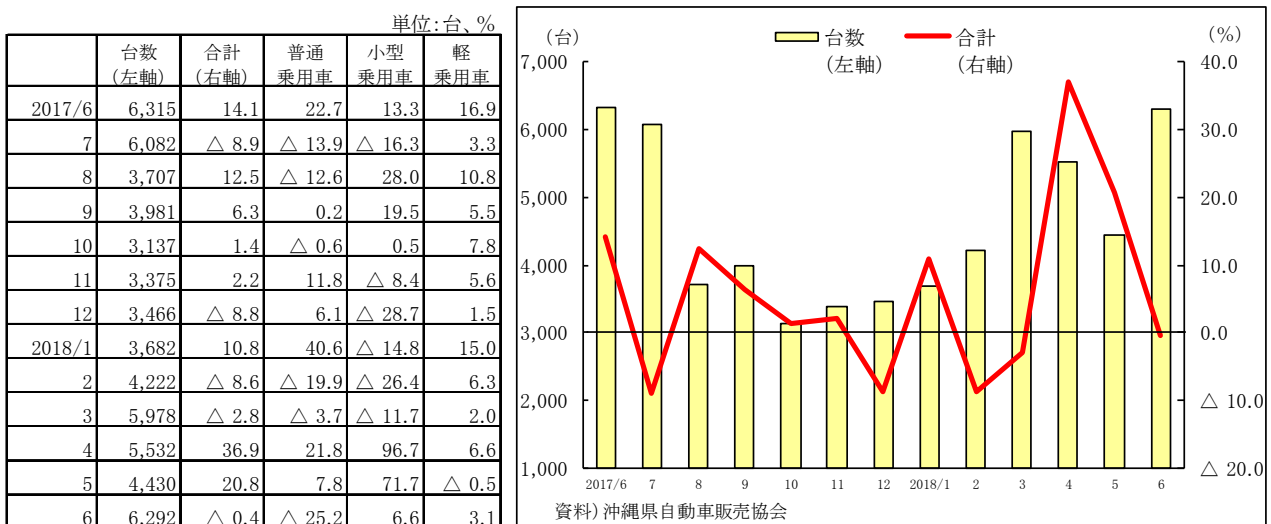
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、太陽光パネルなどの売れ行きが伸びず、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同4.7%減)。品目別では、「エアコン(同10.1%増)」は、前年より気温が高く推移したことから需要が増加し、前年同月を上回りました。「冷蔵庫(同1.9%増)」は、買い替え需要が堅調に推移し、前年同月を上回りました。一方、「テレビ(同14.5%減)」は、前年に高機能・高価格帯商品が伸びた反動などから前年同月を下回りました。また、「太陽光パネル(同46.5%減)」は、需要が減少し、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

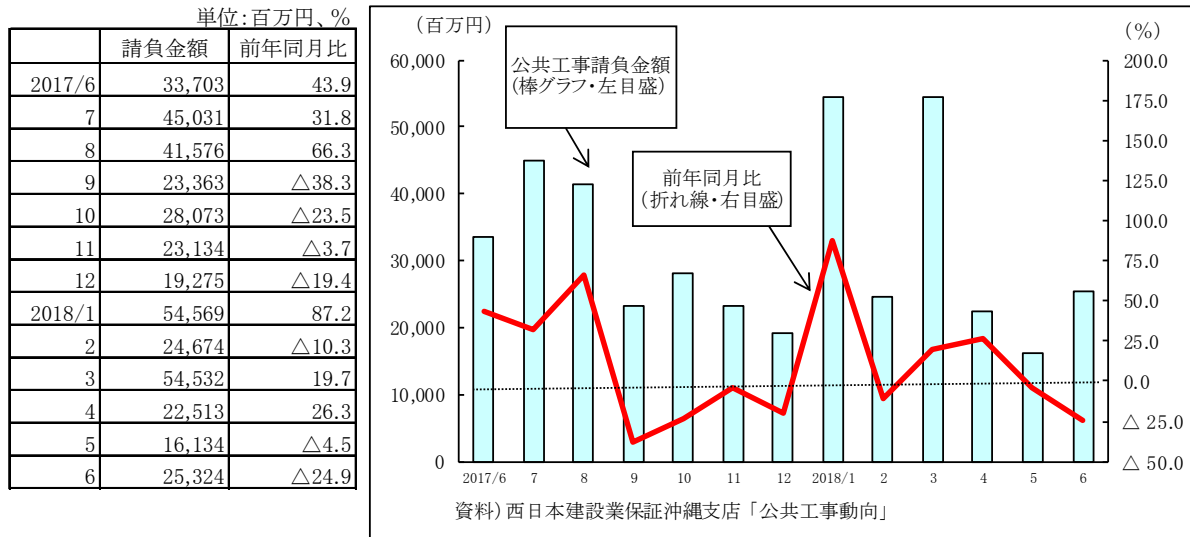
新車販売台数は、全体で6,292台(同0.4%減)となり、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では、「小型乗用車(同6.6%増)」、「軽乗用車(同3.1%増)」は、自家用車需要が堅調に推移したことなどにより、前年同月を上回りました。一方、「普通乗用車(同25.2%減)」は、前年に大きく伸びた反動などから、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



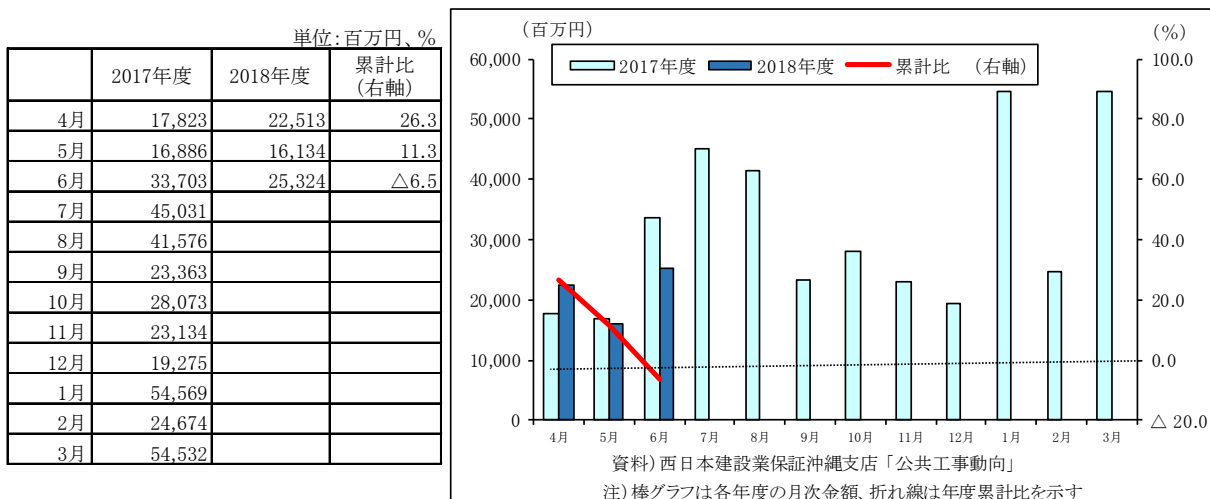
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



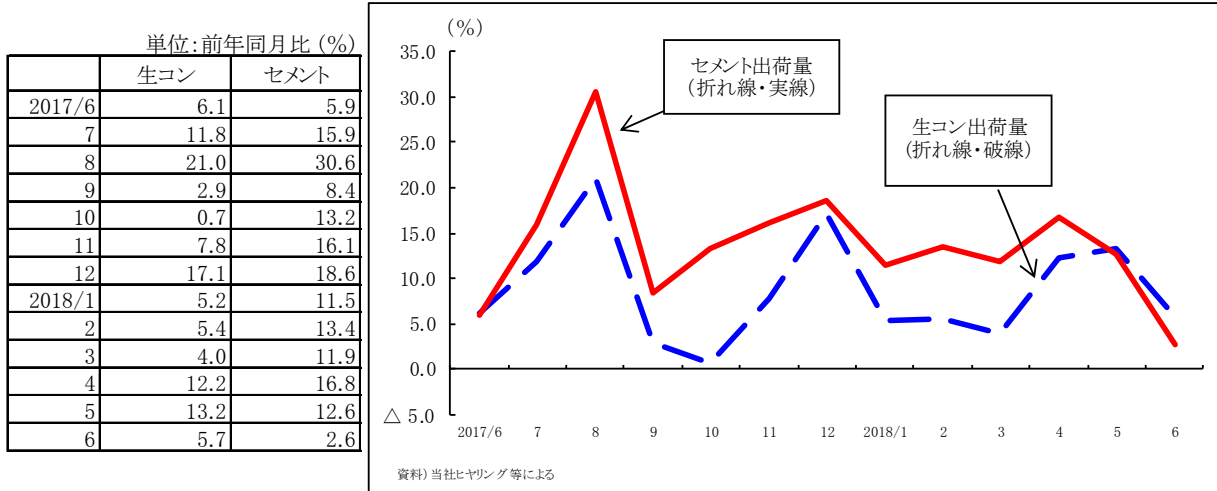
6月の公共工事請負金額は、前年同月比24.9%減の253億2,400万円となりました(2ヵ月連続減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同35.5%増)」や「沖縄県(同26.3%増)」、「市町村(同8.2%増)」は前年同月を上回りましたが、「国(同35.1%減)」や「その他の公共的団体(同91.5%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



今年度累計値では、6.5%減となっています。(上記折れ線グラフ)

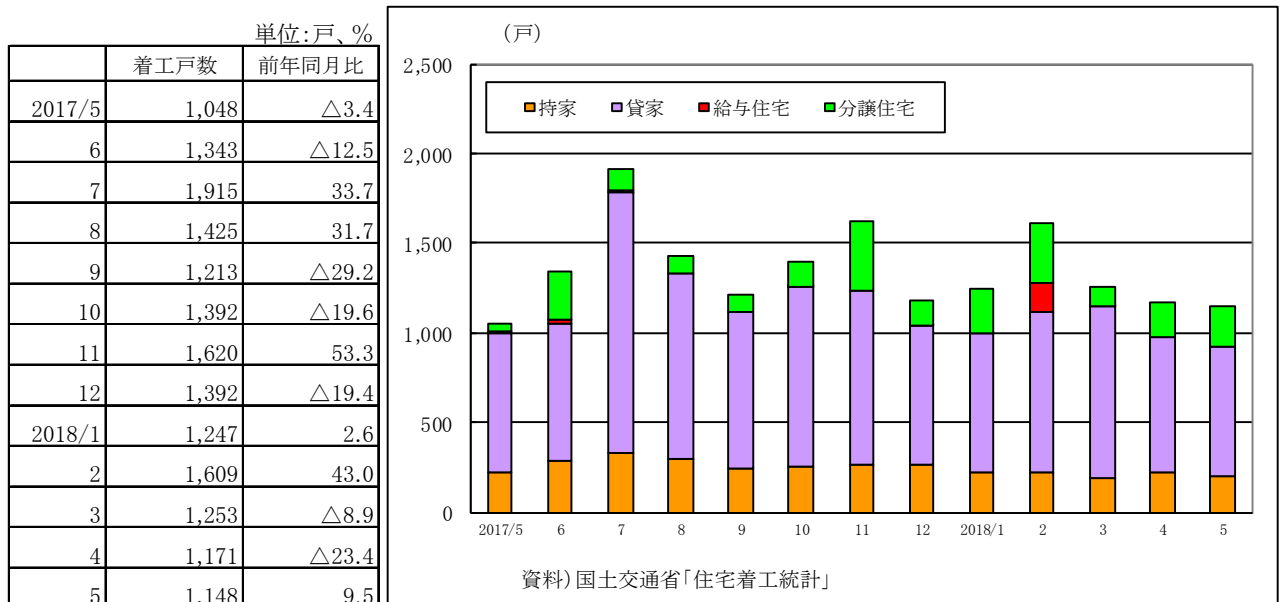
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注1)セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

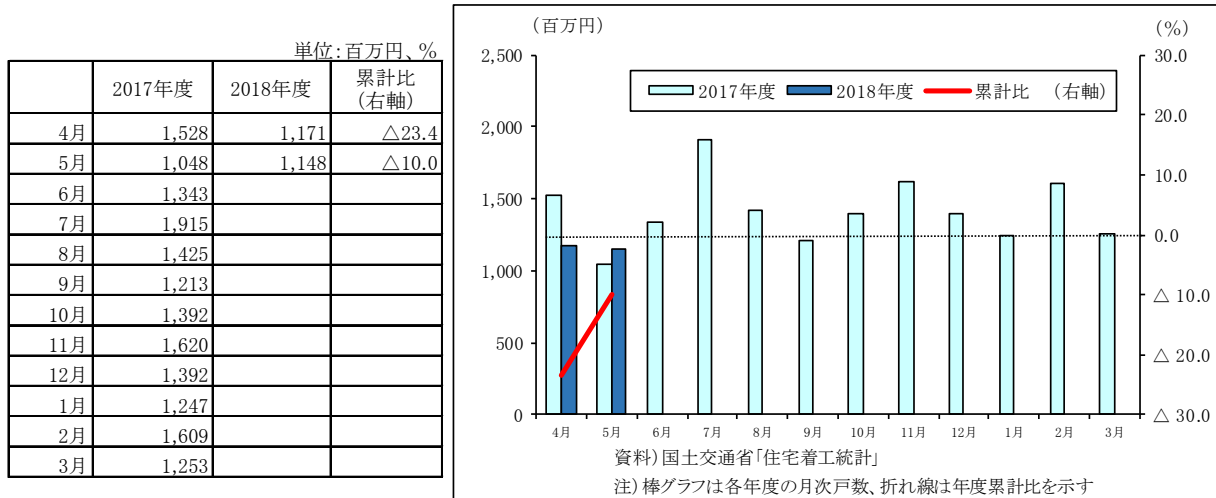
建設資材関連では、生コンの出荷量は5.7%増と16ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より21.1%下回ったものの、民間工事向け出荷が23.4%上回りました。セメント出荷量は2.6%増と19ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(5月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数(5月)は、全体で前年同月比9.5%増の1,148戸と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、「分譲住宅(同445.2%増)」は前年同月を上回りました。一方で、ウエイトの高い「貸家(同7.6%減)」や「持家(同9.5%減)」、「給与住宅(同100.0%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・5月までの着工戸数は前年同期を下回る。



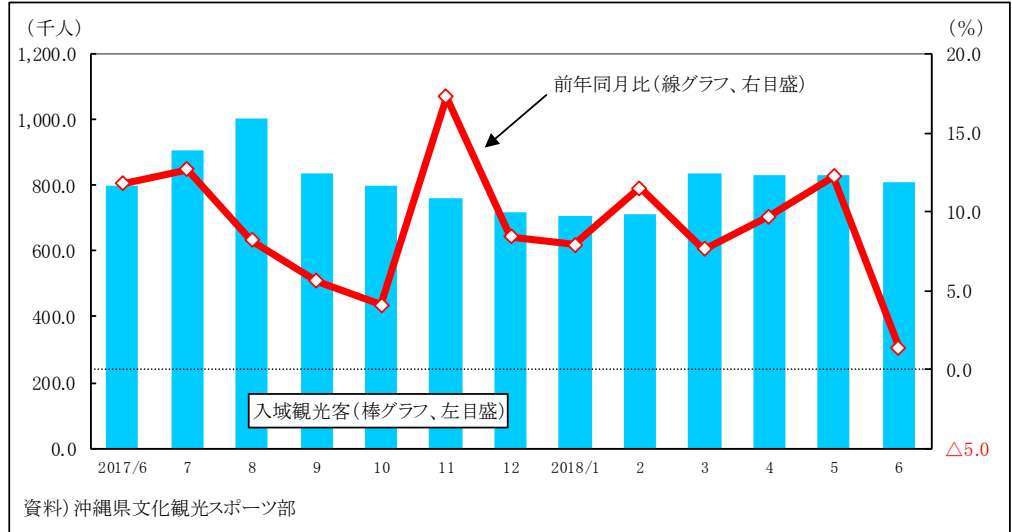
年度累計で見ると、5月までの累計値で10.0%減となっています。



■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・69ヵ月連続で前年同月を上回る。

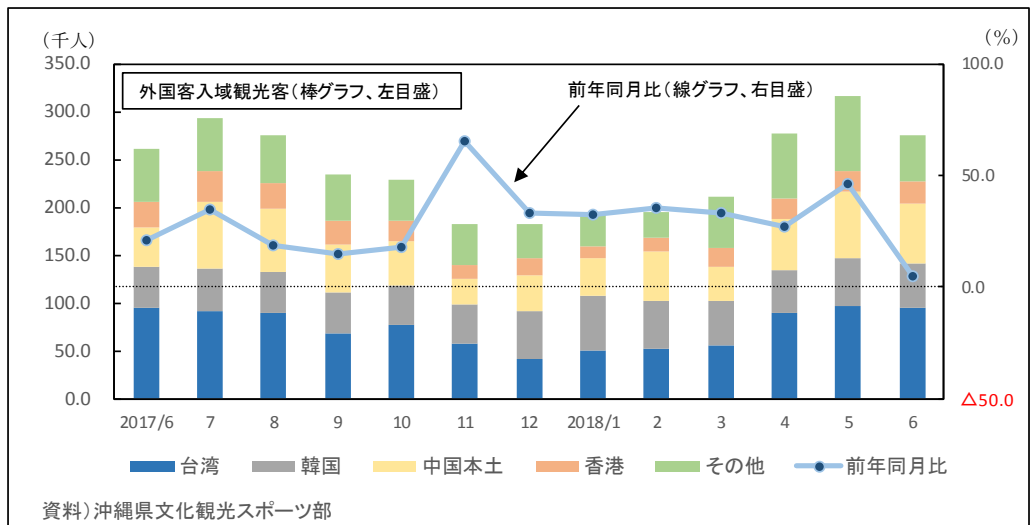
単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1
11	762.9	17.3
12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9
2	711.4	11.5
3	837.4	7.6
4	833.2	9.7
5	830.9	12.2
6	809.7	1.4



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・16ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7
11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1
2	194.8	35.2
3	210.3	32.8
4	276.8	27.2
5	316.3	45.9
6	275.1	5.2



※外国客は乗務員等を含む

6月の入域観光客数は、10,900人多い809,700人(前年同月比1.4%増)となり、69ヵ月連続で前年同月を上回りました(6月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同0.5%減)」は534,600人と、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージ等の販売が良好であったものの、大阪府北部地震の影響等により、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

他方、「外国客(同5.2%増)」は、275,100人と16ヵ月連続で前年同月を上回りました。一部で麻しん(はしか)患者発生の影響がみられたものの、航空路線の拡充や端午節休暇があったこと等から、前年同月を上回りました。

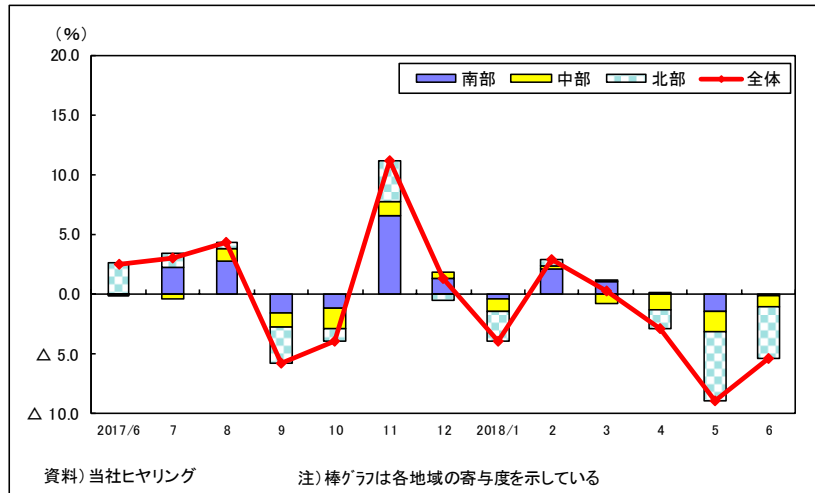
「台湾(同0.7%増)」「韓国(同9.3%増)」「中国本土(同43.5%増)」「香港(同8.6%減)」

※乗務員等を除く2018年6月実績＝全体777,200人(同1.9%増)、外国客242,600人(同7.7%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・3ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/6	r 2.5	△0.1	△ 1.3	r 5.3
7	3.0	6.7	△ 3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△4.7	△ 10.5	△5.6
10	△ 4.0	△3.1	△ 14.5	△2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△1.2
2018/1	△ 4.0	△1.2	△ 7.7	△5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△ 7.0	0.1
4	△ 2.9	0.1	△ 11.3	△3.1
5	△ 9.0	△ 4.0	△ 14.6	△11.7
6	△ 5.4	△ 0.6	△ 8.5	△8.4



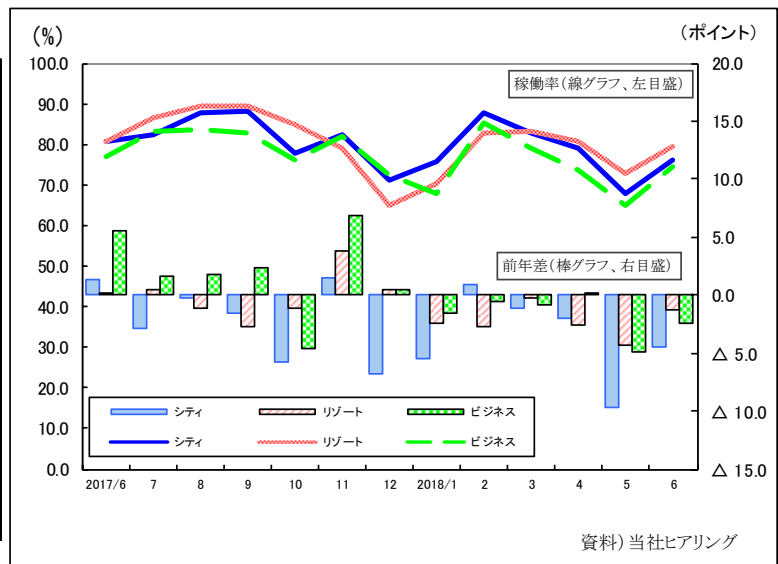
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 5.4%減少(3ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 0.6%減と2ヵ月連続、中部は同 8.5%減と4ヵ月連続、北部は同 8.4%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/6	80.5	80.8	76.9	1.4	0.1	5.6
7	82.2	86.6	83.0	△ 2.9	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.2	△ 1.1	1.8
9	88.0	89.3	82.8	△ 1.5	△ 2.8	2.4
10	77.6	84.9	76.3	△ 5.8	△ 1.1	△ 4.6
11	82.4	78.9	81.8	1.5	3.8	6.8
12	71.2	65.0	72.5	△ 6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△ 2.7	△ 0.5
3	82.8	83.0	79.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.8
4	78.9	80.5	73.6	△ 2.0	△ 2.6	0.2
5	67.9	r 72.9	65.0	△ 9.7	r △ 4.3	△ 4.9
6	76.0	79.5	74.4	△ 4.5	△ 1.3	△ 2.5



注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

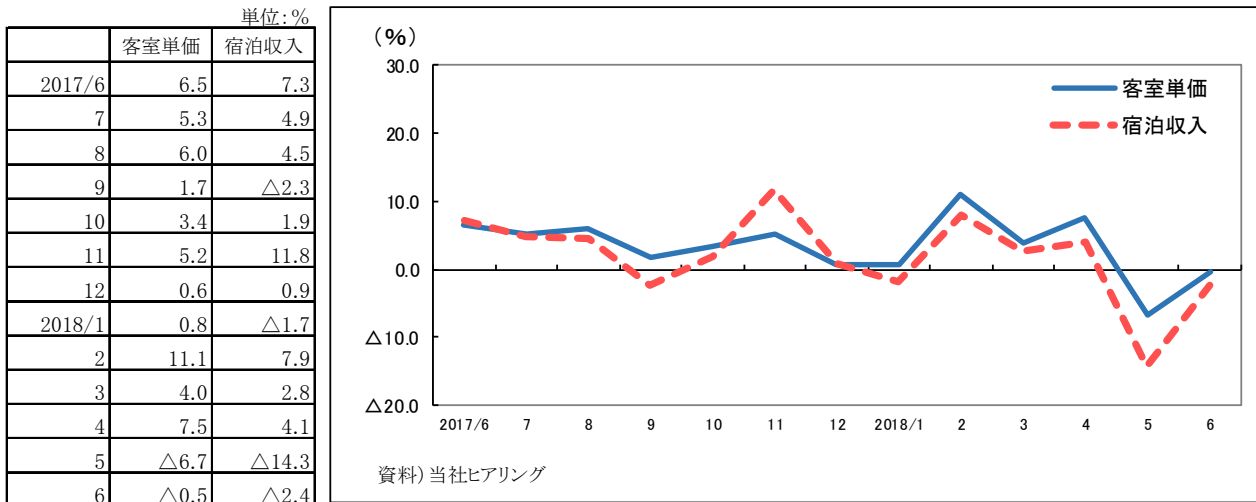
注)2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。

注)2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 76.0%と 4.5ポイント減少(4ヵ月連続)、リゾートホテルが 79.5%と 1.3ポイント減少(6ヵ月連続)、ビジネスホテルが 74.4%と 2.5ポイント減少(2ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

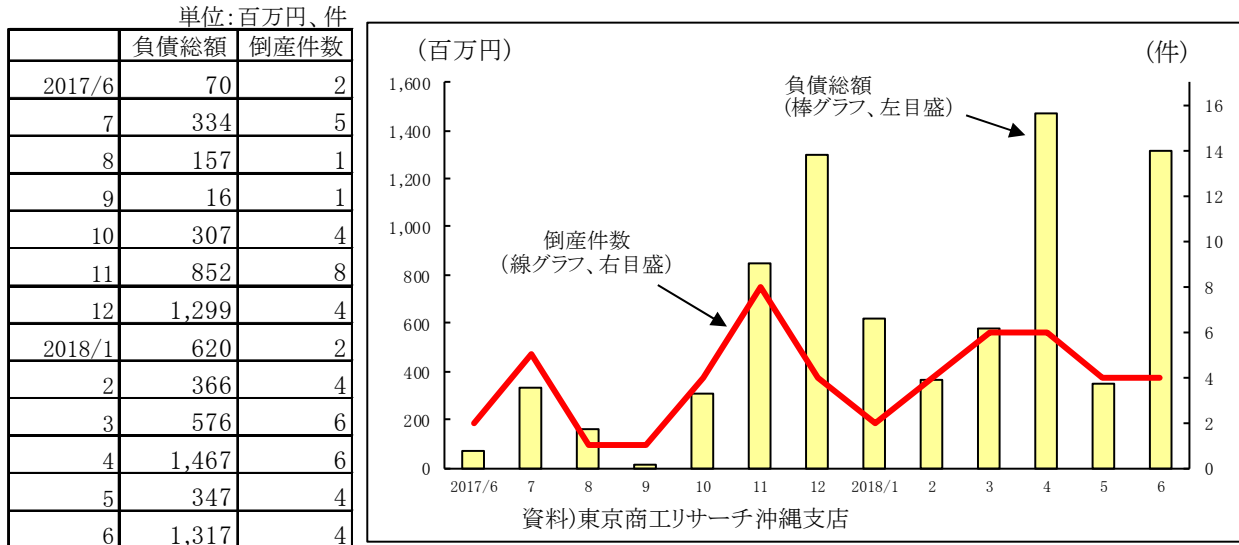
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.5%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同2.4%減と前年同月を下回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

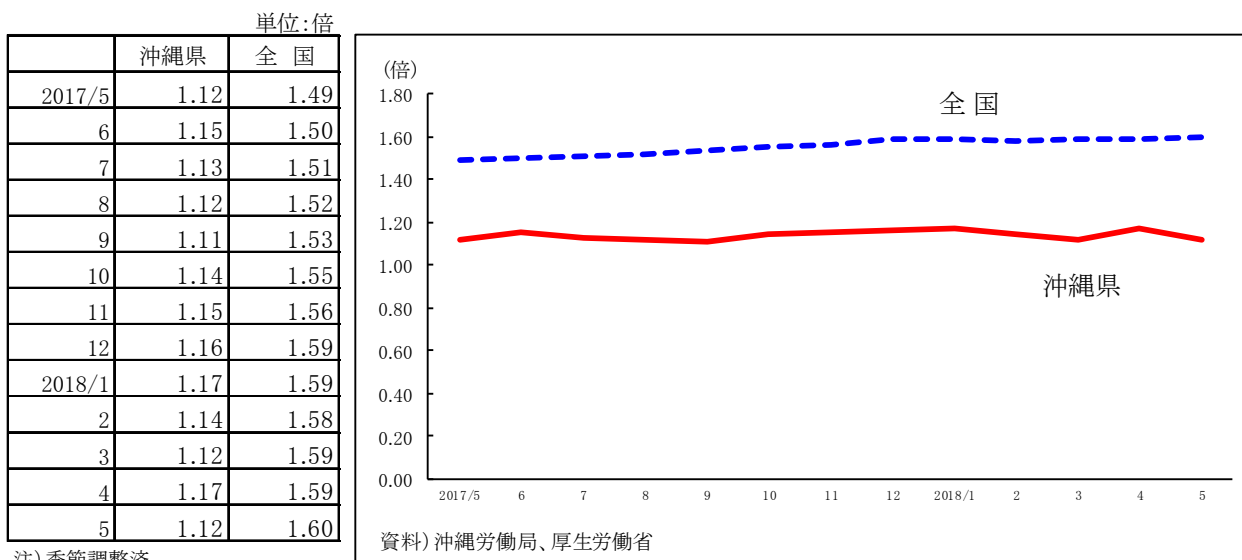


6月の企業倒産件数は、4件(うち大型倒産は1件)となり、同100.0%増と前年同月を上回りました。
負債総額は13億1,700万円となり、前年同月より1,781.4%増加(約18.8倍)しました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(5月)・・・沖縄は前月より低下、全国は上昇。



注)季節調整済

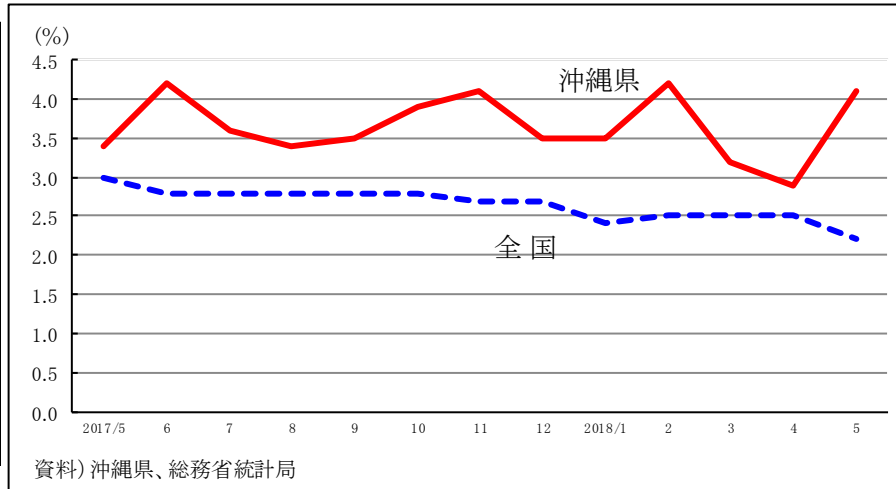
5月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.6%減の28,304人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比3.1%増の25,285人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.12倍となり前月より0.05ポイント低下しました。

完全失業率（5月）・・・沖縄は前月より上昇、全国は低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2017/5	3.4	3.0
6	4.2	2.8
7	3.6	2.8
8	3.4	2.8
9	3.5	2.8
10	3.9	2.8
11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5
3	3.2	2.5
4	2.9	2.5
5	4.1	2.2

注) 季節調整済



5月の完全失業率(季節調整値)は、4.1%となり前月より1.2ポイント上昇しました。